

2014年7月16日

ウェザーニューズ 今夏の「ゲリラ雷雨傾向」発表 今夏の“ゲリラ雷雨”、最多発生エリアは関東甲信で810回 ～全国的に8月上旬～中旬に多発する傾向で、8月は昨年より2割増の見込み～

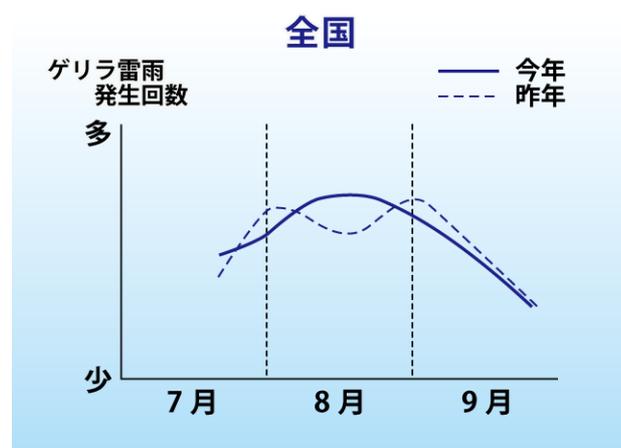
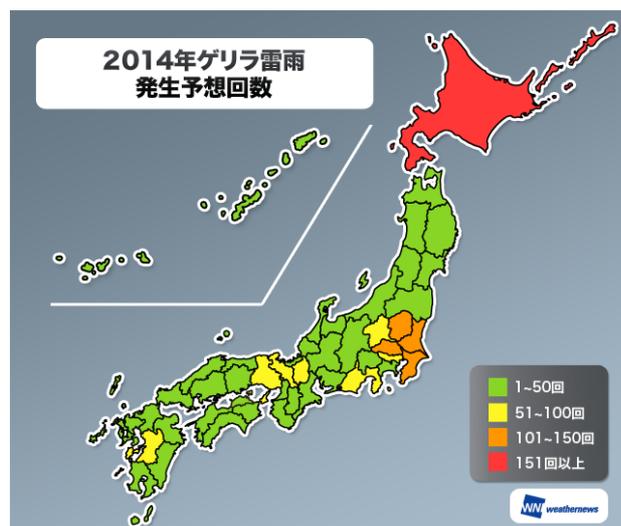
株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に大雨や雷をもたらす“ゲリラ雷雨”に対し、事前対策への意識を高め、被害軽減に繋げるため、7月～9月における“ゲリラ雷雨”の発生傾向を発表しました。今年の“ゲリラ雷雨”発生回数は、全国的に昨年よりやや多くなる見込みで、ピークとなる8月の発生回数は昨年の1.2倍になる予想です。昨年同様、急激に発達する積乱雲により、道路冠水や浸水、落雷などの被害が発生する可能性があります。“ゲリラ雷雨”の発生が多発するこの時期、一人ひとりが災害に対する意識を高め、被害軽減に繋げることが必要とされています。詳細はスマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」よりご覧いただけます。

◆ “ゲリラ雷雨”の発生傾向

“ゲリラ雷雨”は、大気の状態が不安定なときに、局地的な地上付近の気温上昇や地上風の収束などによって上昇気流が形成され、積乱雲が急発達することで発生します。

今シーズンのゲリラ雷雨の発生回数は、太平洋高気圧の勢力が弱まる8月に全国的に増加する予想です。また、最も発生回数が多いエリアは関東甲信で、シーズンを通して約810回発生する見込みです。

西～東日本の広範囲で梅雨明けを迎える7月下旬は、太平洋高気圧が強まり、ゲリラ雷雨の発生回数は少なくなりそうです。8月は昨年に比べて高気圧の勢力が弱いため、湿った空気や上空の寒気の影響を受けやすく、ゲリラ雷雨が多くなる見込みです。9月に入るとゲリラ雷雨の発生回数は次第に減少しますが、お彼岸の頃までは厳しい残暑で気温が高く、ゲリラ雷雨の発生する日があります。また、秋になると台風や秋雨前線の影響を受ける日が次第に増えるため、雷を伴う短時間强降雨や大雨に注意が必要です。



◆エリア別の“ゲリラ雷雨”発生傾向

エリア	2014年ゲリラ雷雨発生回数（7月23日～9月30日）		2013年ゲリラ雷雨発生回数 （7月23日～9月30日）
	予想回数	2013年比予想	
北海道	170回前後	0.9倍前後	187回
東北	220回前後	1.2倍前後	184回
関東甲信	810回前後	1.0倍前後	791回
東海	205回前後	1.1倍前後	183回
北陸	100回前後	1.0倍前後	80回
近畿	325回前後	1.2倍前後	272回
中国	130回前後	1.0倍前後	135回
四国	35回前後	1.0倍前後	38回
九州	140回前後	1.0倍前後	142回
沖縄	45回前後	1.5倍前後	29回

◆都道府県別の“ゲリラ雷雨”発生傾向

都道府県	“ゲリラ雷雨” 発生回数 （7月23日 ～9月30日）	昨年の“ゲリラ 雷雨”発生回数 （7月23日 ～9月30日）	都道府県	“ゲリラ雷雨” 発生回数 （7月23日 ～9月30日）	昨年の“ゲリラ雷 雨”発生回数 （7月23日 ～9月30日）
北海道	170回程度	187回程度	滋賀県	65回程度	54回程度
青森県	30回程度	26回程度	京都府	75回程度	64回程度
秋田県	25回程度	20回程度	大阪府	50回程度	42回程度
岩手県	50回程度	40回程度	兵庫県	90回程度	75回程度
宮城県	35回程度	29回程度	奈良県	30回程度	24回程度
山形県	30回程度	26回程度	和歌山県	15回程度	13回程度
福島県	50回程度	43回程度	岡山県	45回程度	46回程度
茨城県	130回程度	127回程度	広島県	40回程度	42回程度
栃木県	140回程度	136回程度	鳥取県	25回程度	27回程度
群馬県	100回程度	100回程度	島根県	5回程度	5回程度
埼玉県	120回程度	118回程度	山口県	15回程度	15回程度
東京都	70回程度	70回程度	徳島県	15回程度	15回程度
千葉県	110回程度	106回程度	香川県	5回程度	7回程度
神奈川県	55回程度	51回程度	愛媛県	5回程度	5回程度
山梨県	35回程度	34回程度	高知県	10回程度	11回程度
長野県	50回程度	49回程度	福岡県	20回程度	20回程度
新潟県	25回程度	21回程度	佐賀県	10回程度	10回程度
富山県	25回程度	19回程度	長崎県	20回程度	20回程度

石川県	30 回程度	25 回程度	熊本県	55 回程度	56 回程度
福井県	20 回程度	15 回程度	大分県	5 回程度	6 回程度
静岡県	90 回程度	82 回程度	鹿児島	15 回程度	16 回程度
愛知県	50 回程度	43 回程度	宮崎	15 回程度	14 回程度
三重県	25 回程度	23 回程度	沖縄	45 回程度	29 回程度
岐阜県	40 回程度	35 回程度	全国	2180 回程度	2041 回程度

◆エリアにおける“ゲリラ雷雨”発生傾向（7月下旬以降）

<p style="text-align: center;">北日本</p> <p>北日本のゲリラ雷雨の発生回数は昨年と同じかやや多くなる見込みで、ゲリラ雷雨のピークは8月上旬～中旬になりそうです。7月下旬～8月上旬は東北で梅雨明けを迎えますが、太平洋高気圧の勢力は弱く、湿った空気や上空の寒気の影響を受けて、ゲリラ雷雨が発生しやすくなります。</p> <p>北海道のゲリラ雷雨の発生回数を昨年と比べると、7月は少なく、8月～9月は同程度になりそうです。</p> <p>東北のゲリラ雷雨の発生回数は、7月は昨年より少ないものの、8月～9月は昨年の1.2～1.6倍程度になる見込みです。また、9月後半になると秋雨前線や台風接近の影響で大雨になる日もあります。突発的な雨ではありませんが、雷を伴う強い雨に注意が必要です。</p>	<p style="text-align: center;">北日本</p>
<p style="text-align: center;">東日本</p> <p>東日本のゲリラ雷雨発生回数は昨年と同程度で、関東は全国で最も多い予想です。7月下旬に梅雨明けした後は、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、高気圧の勢力は昨年ほど弱くなく、湿った空気や上空の寒気の影響でゲリラ雷雨が多く発生する見込みです。9月になると次第にゲリラ雷雨は減少しますが、お彼岸の頃まで残暑が厳しく突発的な雷雨に要注意です。また、台風が接近して大雨になる恐れもあり、ゲリラ雷雨シーズン後も雨による災害に注意が必要です。</p> <p>関東甲信や東海のゲリラ雷雨のピークは8月で、昨年の同時期の1.2～1.3倍程度の発生回数になりそうです。道路冠水や河川の急激な水位上昇などに注意して下さい。北陸では8月、9月ともにゲリ</p>	<p style="text-align: center;">東日本</p>

<p>ラ雷雨が多い見込みで、発生回数は昨年の 1.3 倍程度となる予想です。</p>	
<p>西日本</p>	<div data-bbox="836 454 1461 904" data-label="Figure"> </div>
<p>西日本のゲリラ雷雨のピークは 8 月上旬～中旬で、発生回数は昨年と同じかやや多くなる予想です。7 月下旬に梅雨明けした後は、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、高気圧の勢力は昨年ほど強くなく、湿った空気や上空の寒気の影響を受け、ゲリラ雷雨が発生しやすくなる見込みです。9 月には次第に雷雨の回数が減少しますが、9 月前半は残暑が厳しく、ゲリラ雷雨が発生する可能性があります。また、9 月後半には台風が接近する時期もあり、ゲリラ雷雨のシーズンが過ぎた後も、大雨による災害に注意が必要です。</p> <p>近畿のゲリラ雷雨のピークは 8 月になる見込みで、この時期の発生回数は昨年の 1.3 倍程度になる予想です。また、中国、四国、九州では昨年と同程度の発生回数となる見込みです。</p>	

◆ “ゲリラ雷雨” 発生回数の求め方

“ゲリラ雷雨” をもたらす雷雲は、予め予測可能な前線による雨とは別で、“突発的”かつ“局地的” に発達し、事前に予測することが難しいのが特徴です。また限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1300 箇所)では、全ての降雨を正確に観測できないのが現状です。当社では、全国 650 万人以上の利用者からなる降雨報告(※)において、過去 90 分前から 30 分前までに“ポツポツ”以上の雨が 2 割以内の状態が続いている時に“ザーザー”以上の強い雨(5 段階中の 2 番目以上に強い雨)が報告された中で、前線等の影響による雷雨を除いたものを“ゲリラ雷雨”とし、10km メッシュごとにカウントしています。昨年の発生回数は 7 月 23 日～9 月 30 日の期間で算出しています。

※) 降雨報告はスマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通し、“ポツポツ” “バラバラ” “サー” “ザーザー” “ゴォー” の 5 段階で報告されます。

◆ “ゲリラ雷雨” 傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みを行っていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。この度の“ゲリラ雷雨”の傾向発表にあたり、気象機関や長期予報の有識者の複数の見通しをもとに、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報は、発表日における最新の見解です。また、今年の見通しは、7 月下旬～9 月末までの期間を対象としています。